

平成29年度認可外保育施設教育費補助にかかる補助対象施設募集 認可外保育施設教育費補助審査部会による審査 採点集計表(案)

審査対象施設 :

委員 :

| 審査項目 (大項目) | 審査項目(小項目) | 配点 | 採点 | |
|-------------------|---|-----|-----|-----|
| | | | 調整前 | 調整後 |
| 1 管理者 | 1 管理者は、認可外保育施設等の教育・保育施設の運営に携わった経験を有している。 | 2 | | |
| | 2 管理者は、中長期的な運営の方針及び目標を持ち、その実行に向けて、職員への指導力を発揮している。 | 2 | | |
| | 計 | 4 | | |
| 2 職員 | 3 クラスの担任が固定しているなど、日々の教育・保育の中で職員間の役割と責任の範囲を定めており、また、その上で、主たる開所時間内において認可外保育施設指導監督基準に示す保育従事者の必要数を越える職員配置を行う時間を設けていることにより、安心・安全に教育・保育が提供できる職員体制となっている。 | 2 | | |
| | 4 人材育成にかかる研修計画等を作成した上で、職員会議や職員研修を行うための時間及び書籍等を確保するなどにより、職員一人ひとりの研修の機会が確保されている。 | 2 | | |
| | 計 | 4 | | |
| 3 保育課程の編成 | 5 保育課程が、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成され、保育の方針や目標に基づいて編成されている。 | 2 | | |
| | 6 保育課程は職員全員が参画して編成している。 | 2 | | |
| | 7 保育課程の編成は、定期的に評価し、評価に基づき改善されている。 | 2 | | |
| | 8 保育計画として作成する年間行事計画、年案、月案、週案、デイリープログラムについて、相互につながりがあるものとなっており、保育課程とも整合性がとれている。 | 2 | | |
| | 計 | 8 | | |
| 4 生活と遊び | 9 保育所保育指針・幼稚園教育要領で示す5領域の内容を、生活や集団における遊びを通して総合的に身に付けられるよう計画し、実践されている。 | 2 | | |
| | 10 4歳児の教育・保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境が整えられ、保育者が適切にかかわっている。 | 2 | | |
| | 11 5歳児の教育・保育に関して、集団の中で一人ひとりの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境が整えられ、保育者が適切にかかわっている。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 5 生活と発達 | 12 家庭環境や生活リズム、また身体的成長の差等から生じるこども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。 | 2 | | |
| | 13 こどもの欲求や要求に対して、そのつど気持ちを受け止めて対応し、こどもにわかりやすい穏やかな言葉使いで接している。 | 2 | | |
| | 14 登所時に泣くこどもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、こどもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 6 基本的な生活習慣 | 15 食事、排泄、睡眠、着脱、清潔などの基本的な生活習慣の確立ができるような環境が整えられている。 | 2 | | |
| | 16 自分の健康に関心を持ち、病気の予防や健康増進のための習慣や態度を身につけられるような働きかけがされている。 | 2 | | |
| | 17 戸外で遊ぶ時間や空間が確保され、遊びの中で、こどもたちが自ら進んで体を動かすことができるような働きかけがされている。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 7 人間関係 | 18 こどもが自発性を発揮できるような働きかけをし、こどもたちが友だちと協同して活動できるような働きかけをしている。 | 2 | | |
| | 19 こども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをし、けんかの場面では、危険のないように注意しながら、こどもたち同士で解決するように援助している。 | 2 | | |
| | 20 当番活動や順番を守る、あいさつができる、物を大切に扱うなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 8 自然・社会 | 21 こどもが身近に動植物に接する機会をつくっている。 | 2 | | |
| | 22 散歩や行事などで、こどもたちが主体的に地域の人たちに接する機会をつくり、また、地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。 | 2 | | |
| | 23 季節や時期、こどもの興味を考慮して、生活に変化や潤いを与える地域の伝統的な行事などを日常保育の中に取り入れている。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 9 言語環境 | 24 遊びや活動の中で、様々な話し言葉に触れる機会を設け、絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。 | 2 | | |
| | 25 クレヨン・絵具・粘土・紙など、様々な素材や用具などをこどもが自分で考え選んで工夫して遊ぶことができるように用意されている。 | 2 | | |
| | 26 こどもが遊びの中で自由に歌ったり、踊ったり、いろいろな楽器を楽しんだりすることができ、身体を使った様々な表現遊びが取り入れられている。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 10 小学校就学に向けた配慮 | 27 小学校のことについて知ったり、小学生と交流したりすることで、こどもが小学校以降の生活について見通しを持てるようにする機会が設けられている。 | 2 | | |
| | 28 保護者が小学校以降のこどもの生活について見通しを持てるような場が設けられている。 | 2 | | |
| | 計 | 4 | | |
| 11 こどもの人権の尊重 | 29 こどもの基本的人権の尊重やプライバシーの保護についての考えをまとめたマニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 | 2 | | |
| | 30 児童虐待を発見した場合の対応について定めたマニュアルが利用することもやその保護者の実態に応じたものとなっており、不適切な養育や虐待を受けていると疑われるこどもの早期発見に努めている。 | 2 | | |
| | 31 職員に対して不適切な養育や虐待が疑われるこどもの特徴をはじめ、虐待に関する理解を促すための取組を行っている。 | 2 | | |
| | 32 体罰や暴言、威嚇等起こりやすい状況や場面について、体罰等を伴わない援助技術を修得できるよう研修や話し合いを行っている。 | 2 | | |
| | 計 | 8 | | |
| 12 教育・保育環境 | 33 採光や換気、保温、清潔等の環境保健に配慮している。また、手洗い場・トイレは、明るく清潔で、こどもが利用しやすい設備が用意され、安全への工夫がされている。 | 2 | | |
| | 34 安心した環境の中で、自由に遊びに取り組めるよう配慮され、一人ひとりのこどもがくつろいだり落ち着ける場所がある。 | 2 | | |
| | 35 保育室の環境の色彩や音、家具や遊具の素材・配置等が工夫されており、安心して豊かな活動ができるように配慮されている。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 13 食事の提供 | 36 食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮する、こどもが友だちや職員と一緒に食事を楽しむ、こどもが配膳や後片づけなどに参加するなどにより、こどもが食べ物に関心を持つよう工夫している。 | 2 | | |
| | 37 食事の献立については、旬の物や季節感のある食材を活かし、行事食なども随時取り入れ、個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 | 2 | | |
| | 38 アレルギーや食中毒に対応するマニュアルが施設運営や利用するこどもの実態に応じたものとなっており、職員に周知徹底するとともに、食事の際、職員全員の認識のもと、アレルギーのあるこどもと他のこどもたちとの相違に配慮している。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 14 こどもの健康管理・感染症予防 | 39 保護者から聞き取って、こども一人ひとりの健康状態に関する情報を把握でき、必要に応じて関係職員に周知されている。 | 2 | | |
| | 40 体調のすぐれないこどもについては、保護者と確認し、食事の内容やその日の過ごし方について柔軟に対応している。こどもの体調悪化・けがなどについてはとくに留意して保護者に伝え、事後の確認をしている。 | 2 | | |
| | 41 感染症の予防と発生時等の対応マニュアルが施設運営や利用するこどもの実態に応じたものとなっており、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催するなど、職員に周知徹底している。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 15 安全管理 | 42 火災、地震、津波、不審者の侵入等への対応を示した安全管理マニュアルが施設周辺の状況や施設運営、利用するこどもの実態に応じたものとなっており、定期的に避難訓練を行う等により、職員に周知徹底している。 | 2 | | |
| | 43 日常の安全管理や事故防止、耐震対策のため、設備等(遊具・玩具・用具・園庭など)の安全点検を定期的に行っている。 | 2 | | |
| | 44 事故の予防及び発生時の対応マニュアルが、あらゆる事故を想定した上で、事故発生時にはすぐに対応できるように構成されており、職員に周知徹底するとともに、事故発生の危険性の軽減策の1つとして、「慣らし保育」の仕組みを導入し、保護者が関心を持っているような場合には保護者に対し啓発を行うことができている。 | 2 | | |
| | 45 事故等による心停止等に対応するため、AEDをすぐに使用できる環境を整えるとともに、管理者も含めた複数の職員が普通救命講習を受講している、または、受講を予定している。 | 2 | | |
| | 計 | 8 | | |
| 16 保護者に対する支援 | 46 連絡帳への記載などの日常的な情報交換を行った上で、日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係がつけられている。 | 2 | | |
| | 47 個別の相談や送迎の際の対話など記録等によってそのことが確認できる。また、家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。 | 2 | | |
| | 48 保護者との相互理解のために懇談会などの話し合いの場を設けたり、保護者の保育参加を行うなど、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。 | 2 | | |
| | 計 | 6 | | |
| 17 苦情解決・記録の管理 | 49 苦情解決の体制を整備し、保護者への周知を行い、苦情を受け付けし解決を図った記録が適切に保管されている。 | 2 | | |
| | 50 こども一人ひとりの教育・保育、健康管理についての記録を統一した様式等により記録し、職員間で共有されている。 | 2 | | |
| | 計 | 4 | | |
| 合計 | | 100 | | |